

市民と議会・行政をつなぐパイプ役として
地方議会に議員を送り出しています

編集・発行 世田谷・生活者ネットワーク 代表/佐藤里子

〒154-0021 世田谷区豪徳寺 1-20-7-101

TEL: 03-3420-0737 FAX: 03-3706-1744

email: setagaya@seikatsusha.net

http://setagaya.seikatsusha.net

市民がつくりだす 新しい地域の縁

広がる子ども食堂・世田谷での取り組み



子ども食堂・みつとにて



子ども食堂・みつとのツリーサラダ

ありません。
そのような中、子どもが一人でも入
れ、栄養たっぷりの食事をあたたかな雰
囲気の中で食べられる食堂が、市民発で
広がっています。区内でも、6年前にプ
レパークが中高生のための「夕食会」を
始めましたが、昨年から「世田谷さん
さん子ども食堂」「存明寺子ども食堂」
「せたがや子ども食堂・みつと」が相次い
でオープンしました。月に数回の開催で
も、だんだん常連の子が通い始め、親や教
師以外の大人と触れあい、食事をしなが
ら自分の気持ちを語り出します。
「貧困と知られることがいやで食べに
来ない親子もいる。逆に、無料だからと

格差社会と騒がれるようにな
って久しく、今や貧困は幼い世
代にも顕著に現れるようになり
ました。日本の貧困率は過去最
悪で、子どもの6人に1人が、一
日三食をきちんととれていない
と言われています。とりわけ、
ひとり親世帯の貧困率は50%を
超えており、深刻な状況です。
また、親が仕事で忙しいなどの
理由から一人で食事をとらざる
を得ない「孤食」という心の貧困
も、核家族化が進む現代の問題
です。

高度経済成長期、地方から都
市へ人が流れ、コミュニティは地縁
の拡大した今、私たちはどこに
縁を求めてゆくのでしょうか。
人と人との関係を結び直し、一か
らコミュニティを作っていくノウハ
ウの蓄積が日本社会には十分に

やってくる、支援の必要のない親子もい
る。それでもいい、まずは地域に場を作
り、続けることから、いろいろな課題を発
見していけると思っている」と現場のス
タッフは言います。
場づくり時間づくりは民主主義の基
本。そして食は生活者ネットワークの基
本です。子どもを中心に、高齢者や独り
暮らし、共働き、障害のある人など、家庭
で料理の困難な人のために「安心な食材
を、おいしく調理して、楽しく食べる」こ
とのできる場を広げてゆきたいものです。
そもそも格差問題は、国の大企業を
優先した経済政策の結果です。ゆとり
を持つて働けない親の問題が子へ影響し
ているのであって、子どもの人権への侵害
です。
区でも地域包括ケアと絡めた子ども
の貧困対策の方向性がまとまりました
が、やはり行政だけでは、地域の細かい問
題、特に子どもたちの現状は把握しきれ
ず、支援は行き届きません。現場を知
る市民がともに担うことで、本当に助け
合う社会を実現していけます。行政と
市民の間を行き来する人々たちを増やす
ため、生活者ネットワークはこれからも
代理人運動を進めてまいります。教育・
給食の無償化も目指します。
小さな助け合い
の拠点があちこち
に広がり、全体と
して社会をカバー
していく、それは
きつと、面倒だけ
ど楽しい取り組み
に違いありません。



中高生の夕食会 (写真提供: プレパークせたがや)

新しい年を迎えて

今年は大変厳しい年です。年初にあ
たつて、「現状の平和な暮らし、憲法、民主
主義がさる年にならないように心して行
動する」を肝に銘じました。

昨年、世田谷・生活者ネットワークは
大きな試練の年でした。長らく培ってき
た市民の信頼の証である議席を減らして
しまいました。原因は何か、組織の見直
しはもろろん、基本に立ち返り、地域で
安心して暮らし続け、誰もが「人」として
認められ、生きることを謳歌(肯定)でき
る社会を、大勢の市民とともに目指すこ
とを再確認しました。生活者ネットワー
クが、ことあるごとに使ってきた用語「わ
くわく」。年齢を問わず、希望を持ち、
生き生きと自らの人生にチャレンジする、
決して手放したくない感性です。

「人」を大事に、尊厳ある生き方が可能
な社会。アプローチの方法は多様でしよ
うが、世田谷・生活者ネットワークは、政
治団体・政策集団として市民の声に耳
を傾け、声なき声にも鋭い視点を持ち、
市民レベルからの社会変革の伴走者、時
はリーダーとして市民の代理人として議
員を送り出し、行政へ働きかける力量を
高めます。若いメンバーの登場もありま
す。ご支援のお願いとあわせて、ご期待
ください。

世田谷・生活者ネットワーク新代表

佐藤里子





区議会議員 高岡じゅん子

チャンスを広げ 若者の社会参画を促進

今年6月の選挙から18才以上の選挙権が実現します。昨年は、非暴力平和活動を中心に、高校生や大学生の政治参加や意見表明に心を揺さぶられた年でした。定例会では、このような若い世代の声や行動力を世田谷区が受け止め、共に地域を作っていくよう求め、区長から「若者の主体的な活動を活かし積極的に支援していく」との答弁を得ることができました。

具体的には、若者意見の区政への反映組織である「ユースミーティング」の28年度再開、選挙管理委員会の出前講師を活用した「区立小中学校での政治参加教育の推進」を提案し、前向きな回答を受けています。

ご近所の気づきが活きる 地域包括ケアシステム

高齢・障がい・子育てなどの身近な福祉の相談を受け、支え合いをコーディネートする「地域包括ケアシステム」が、今年、区内27地区すべてに導入されます。

一人歩き(徘徊)の発見等に住民の参加を引き出すこと、まちづくりセンター職員もフットワークよく現場に出て地域に積極的に働きかけること等を求めました。一年中無休で相談できる「高齢者安心

コール」の周知や、区職員が地域に出ていくことにより、安心して暮らせる福祉のまちづくりに取り組むとの答弁を受けました。

地域の小規模デイケア等に きめ細やかな指導監督を

区内には約150か所の小規模デイケアやデイサービス事業所があり、高齢者の生活を支えています。昨年から介護報酬の見直しにより経営が苦しいところも増えている中、これらの事業の許可・指導の権限が4月に都から区へ移管されます。サービスの質の向上には人員の確保や体制の整備が必要と提言しました。



「小規模多機能ホームみんなんち」クリスマス会

利用者保護の観点からも指導は重要と考え、体制の強化をはかりたいとの答弁を受けました。



区議会議員 田中みち子

交通不便地域解消に向けた コミュニティバス等の導入

鉄道駅から500m以上、バス停留所から200m以上離れている地域のことを「公共交通不便地域」といいます。23区で2番目に広い世田谷区では、区内の約20%がこれに該当しています。

鉄道は東西方向に発達し、南北方向の交通は路線バスに頼っているものの、道路の幅員不足や採算性の問題から、その強化は遅れています。「砧・大蔵地区における交通不便地域解消を考える会」開催のアンケート報告会に参加し、歩ける

うちにバスを通して欲しい等、地域の方々の切実な思いを受け止めました。区民と連携・協働のもと、他都市の事例も参考に、それぞれの地域の特性を活かした対策と移動手段の確保を求めました。

妊娠期からの切れ目のない 子育て支援の充実

決算特別委員会で妊娠期からの支援の充実を求めましたが、その翌日に朝日新聞のこんな報道がありました。「25年度に児童虐待により死亡した子どもの数は69人。児童相談所が26年に対応した児童虐待の件数は9万件近く、これは24年連続過去最多で、前年度の2割増し」その対策には妊娠期からの支援が急務。タイムリーな記事に驚くとともに、もっと丁寧整備する必要があると感じ

じ、定例会で再度質問に取り上げました。

区は4月から第2期子ども計画に「妊娠期からの切れ目のない支援・虐待予防」を重点政策の一つに掲げています。1人に行わない子育てを実現するため、すべての妊産婦に対し母子手帳交付時から顔の見える関係性をつくり、常に寄りそい受け止めることができるよう、ワンストップ(1か所で用事が足りる)の相談・支援体制を求めました。また、使いにくいと指摘の多い「母子保健バッグ」子育て応援ブックの更なる改良を求めました。行政の支援から外れやすい家庭を出さない新たな取り組みとして、一定期間研修を受けた育児経験者が家庭訪問する「ホームスタート制度」の導入も提案しました。



母子保健バッグ

ゴミ ごみ収集日カレンダー

何でも燃やせる夢の焼却炉という謳い文句で、8年前に世田谷清掃工場に導入された「ガス化熔融炉」。構造が複雑で管理が難しい炉であるため、生活者ネットワークは反対しましたが、世田谷区と、23区の清掃を管理する組合が導入を決定し、プラスチックごみを不分別に変更してしまいました。結果、不具合が相次ぎ、この日々月間はダイオキシン漏れで正常操業できない事態に至っています。私たちはどの会派よりも先にこの問題を取り上げ、工場設備に投資するより、ごみ減量にこそ予算を充てて取り組むべきであると求めました。分別や収集日を周知する「平成28年版資源・ごみの収集日カレンダー」を、区は年度末に配布予定でしたが、年末ごみの増える時期から活用できるよう11月中の配布を要請し、実現しました。(世田谷区HPからダウンロードもできます)



ごみを減らし焼却炉を減らすため、今こそ市民の環境調査で公正なデータを取得し、行政に対応を迫らなければなりません。空気中に含まれるダイオキシンや重金属類の濃度を測る「松葉のダイオキシン調査」を、23区南生活クラブが中心に実施しています。お近くに黒松の木があれば、ぜひ松葉を採取させていただきたいのでお知らせ下さい。

あなたも会員になりませんか？

生活者ネットワークは、自分の住むまちを暮らしやすいまちにしたいと思う人々の集まりです。生活のなかで疑問に思うことを一緒に考えてみませんか？ 環境・福祉・子ども・食・女性・平和など各部会への参加の他に、都・区議会報告や機関誌などの情報が届きます。講演会や学習会などのイベントに優先参加できます。サポーター会員は年会費1000円から。電話またはメールにてお申し込み下さい。

カンパをお願いします。

生活者ネットワークは、市民のカンパとボランティアで政治活動を行っています。ご賛同くださる方は以下の口座にお振り込み下さい。活動費として大切にさせていただきます。世田谷・生活者ネットワーク 郵便振替口座 00110-1-765709 区政へのご意見をお寄せ下さい。